東日本大震災被災地の方言談話が伝えていること

杉本　妙子

要旨

東日本大震災被災地である青森県から茨城県までの5県5大学が文化庁委託事業として2012・2013年度に収集・報告した41地域からの81談話を、「震災に関わる談話」と「暮らし・民俗の談話」とに大別し、さらに談話で語られている内容により下位分類した。震災に関わる談話からは多様な談話が記録されたこととともに、地域が違っても震災経験に共通点があることがわかった。暮らし・民俗の談話からは地域による民俗行事の違いや日々の様々な暮らしの一面を知ることができる資料となっていることがわかった。2年間で81談話が記録されたが、東日本大震災の規模の大きさや復興の途上にあることを考えると、震災談話も暮らしの談話も、今後も継続的に収集されることが望まれる。

キーワード：東日本大震災　方言談話　震災の談話　暮らし・民俗の談話　談話の分類

1　目的と対象とする方言談話

2012年度以降、東日本大震災被災地である青森から茨城に至る5県5大学では、文化庁委託事業 (1) として各地の方言談話を継続的に収集し、報告書等で公表している。その5県5大学とは、青森県の弘前学院大学、岩手県の岩手大学、宮城県の東北大学（同大方言研究センター）、福島県の福島大学と茨城県の茨城大学である。この5県5大学が収集・報告した方言談話には、多くの震災に関する談話やさまざまな暮らし・民俗の談話があり、震災経験や被災地の暮らしを伝える貴重な資料となっている。また、その量においても、大震災以前には少なかったこの地域の談話資料の充実につながっている。

本稿では、被災地の方言研究や方言談話の研究に資する目的で、5県5大学が2012・2013年度の2年間に収集・報告した41地域の81談話を地域別・内容別に分類・一覧化する。それによって、どの地域に関して、何を記録し、伝えることができたのか―裏を返せば、収集・報告できていないことは何か―を示していく。分類対象とした談話を収めた5県5大学の報告書は以下のとおりである。

青森県　弘前学院大学（2013）『文化庁委託事業報告書：東日本大震災において危機的な状

　© 2015 茨城大学人文学部（人文学部紀要）

況が危惧される方言の実態に関する調査研究（青森県）』

弘前学院大学（2014）『被災地における方言の活性化支援事業報告書：発信！方言の魅力－体験する青森県の方言－』

岩手県　岩手大学（2013）『文化庁委託事業報告書：東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（岩手県）』

岩手大学（2014）「文化庁委託事業報告：『三陸の声を次世代に残そう』プロジェクト」

宮城県　東北大学方言研究センター（2013）『伝える、励ます、学ぶ、 被災地方言会話集―宮城県沿岸15市町―』

福島県　福島大学（2013）『文化庁委託事業報告書：東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（福島県）』

福島大学（2014）『文化庁委託事業報告書：福島県内被災地方言情報のｗｅｂ発信』

茨城県　茨城大学（2013）『文化庁委託事業報告書：東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究（茨城県）』

茨城大学（2014）『文化庁委託事業報告書：方言がつなぐ地域と暮らし・方言で語り継ぐ震災の記憶』

※上記のうち2012年度報告については、文化庁ホームページ（下記）においても公開されている。（http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/）

2　談話の地域別分類

各地の談話を内容によって大別すると、「Ａ：震災の記録」と「Ｂ：民俗・日々の暮らし」とに分けることができる。まずは方言談話の情報提供者の出身地（あるいは談話で語られている地域）で区分して談話の題名を示す。各談話の題名は、原則として各県各大学による文化庁委託事業報告書のものを用いたが、題名のないものに筆者が題名をつけたもの、短い談話を一括したもの、長くかつ内容的に異なるために分割したものなど、一部、報告書とは異なるものがある。

情報提供者の方々が語ってくださった談話の地域は、地図（次ページ）のとおりである。

以下の地域別分類における談話は、北から南に向かって「市町村名＋①、②…：談話の題名」のように「地域名＋番号」を付して示していく。この番号は、地域ごとに2012年度の談話Ａ、談話Ｂ、2013年度の談話Ａ、談話Ｂの順に通し番号とした。

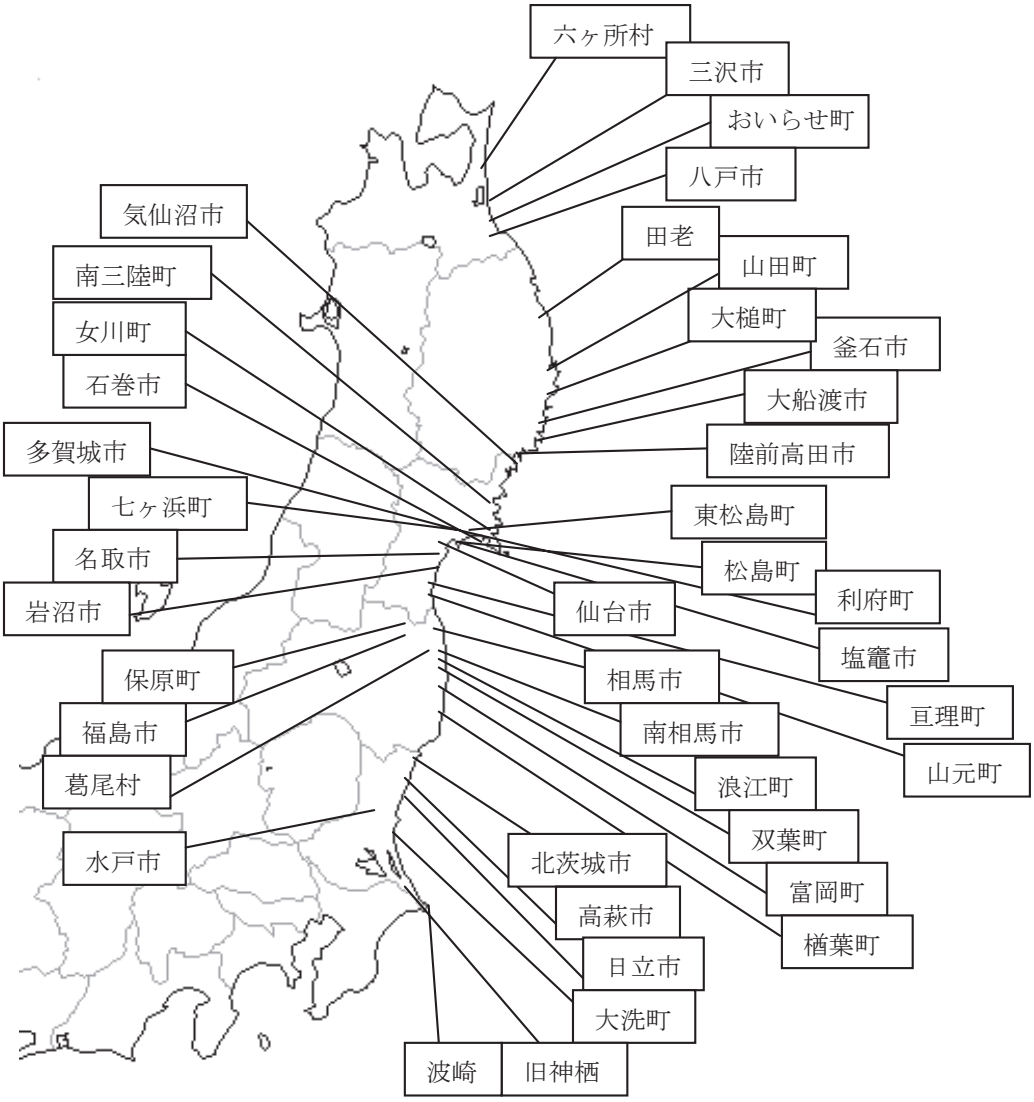

図　東北～茨城の談話収録地点＊

＊白地図「http://mazase-kimono.up.seesaa.net/image/line_img.png」をもとに作成

2012年度　　全30地点49談話（A：37、B：12）

青森　4地点9談話（A：5、B：4）

A：震災の記録

六ヶ所村：震災の日

おいらせ町①：震災の経験　おいらせ町②：震災のときのこと

八戸市①：震災談話　八戸市②震災後

B：民俗・日々の暮らし

三沢市①：農家の暮らし　三沢市②：友人との会話

おいらせ町③：方言意識　おいらせ町④：方言の話

岩手　2地点3談話（A：3）（3談話とも2013年度の報告を含むため一括）

A：震災の記録

釜石市①：津波から生き残るために―両石地区―　釜石市②：胸まで太平洋が来た―唐丹地区―

大船渡市：「我慢強い」ではなく「辛抱強い」

宮城　15地点16談話（A：12、B：4）（分割した談話1を含む）

A：震災の記録

気仙沼市：震災のときのこと

（本吉郡）南三陸町①：震災のときのこと

石巻市：震災のときのこと

東松島市：震災のときのこと

（宮城郡）松島町：震災のときのこと

（宮城郡）利府町：震災のときのこと

（宮城郡）七ヶ浜町：震災のときのこと

仙台市：震災のときのこと

名取市：震災のときのこと

岩沼市：震災のときのこと

（亘理郡）亘理町：震災のときのこと

（亘理郡）山元町：震災のときのこと

B：民俗・日々の暮らし

（本吉郡）南三陸町②：昔の山仕事の苦労話

（牡鹿郡）女川町：地域の文化のこと

塩竈市：方言のこと

多賀城市：方言のこと

福島　2地点4談話（A：4）

A：震災の記録

（伊達市）保原町①：あんぽ柿が出荷できない　保原町②：地震の備え　保原町③タケノコと放射線量

福島市：地震が起きたときのこと

茨城　7地点17談話（A：13、B：4）

A：震災の記録

水戸市①：震災の時のこと　水戸市②：震災と地域の助け合い

（北茨城市）大津町①：地震の時の話　大津町②：チリ津波の経験談と今回の津波の時の話

高萩市：震災当日のこと、津波による建物の被害

日立市：震災のとき、井戸が役立ったこと

（東茨城郡）大洗町①：震災の瞬間のこと　大洗町②：震災直後の津波と避難のこと　大洗町③：陸での避難のこと　大洗町④：陸での避難場所から沖での避難を見守っていたこと

（神栖市奥野谷）旧神栖①：テンデンシノギと昔の漁師

（神栖市）波崎①：震災当日のこと　波崎②：チリ地震の時のこと

B：民俗・日々の暮らし

旧神栖②：草山と弁天山　旧神栖③：方言の話　旧神栖④：農業の変化　旧神栖⑤：講の話

2013年度[(2)]　**全12地点32談話**（A：15、B：17）

岩手　4地点12談話（A：8、B：4）

A：震災の記録

陸前高田市：「イギッタッタネー」3.11を乗り越えて

（宮古市）田老①：竹林の記憶の話　田老②：昭和三陸大津波のときの避難生活の話　田老③：家の石垣と昔の道路の話　田老④：1933（昭和8）年の津波の紙芝居について

（閉伊郡）山田町①：東日本大震災の津波の話（その1）　山田町②：東日本大震災の津波の話（その2）　山田町③：山田の漁業の過去・現在・将来の話

＊上記の他、2012年度の「釜石市①」「釜石市②」「大船渡市」の前半部分と同じ3つの談話の報告があるが、これについては2012年度談話として一括した。

B：民俗・日々の暮らし

（閉伊郡）大槌町：大槌町の伝承および地名に関する考証

田老⑤：盛岡弁の話

山田町④：大切にしたい山田の方言の話　山田町⑤：結婚式（披露宴）の話

福島　6地点14談話（A：6、B：8）

A：震災の記録

南相馬市小高区：地震が起きたとき、どう逃げたか

相馬市：地震が起きたとき、津波で助かるかどうかは紙一重だった

（双葉郡）葛尾村①：避難したときのこと

（双葉郡）浪江町①：地震が起きたときのこと、津波は来ないと思っていた　浪江町②：避難してすぐの頃のこと

（双葉郡）双葉町①：原発からの避難の話

B：民俗・日々の暮らし

葛尾村②：葛尾村は昔は相馬藩と三春藩だった　葛尾村③：方言の話

双葉町②：正月のお供え、凍み餅、十日市の話　双葉町③：正月飾り、小正月の稲穂つけの話　双葉町④：正月の雑煮・餅つきのこと　双葉町⑤：桑畑の話

（双葉郡）楢葉町他①：七五三、立志式、葬式の白鳩　楢葉町他②：方言の違いの話

茨城　2地点6談話（A：1、B：5）（一括した談話1つ＝波崎③を含む）

A：震災の記録

波崎③：震災のときのこと、他

B：民俗・日々の暮らし

（北茨城市）平潟①：昔の門松・ドンド焼き・正月の市のこと　平潟②：小正月の嫁の里帰りとナリ木　平潟③：子どもの頃の遊び

波崎④：雷の話　波崎⑤：正月の行事

5県の2年間の取り組みで、全41地点（のべ42地点）の81談話を記録、公表している。2012年度は、東日本大震災発生から1～2年であり、各県で多くの震災に関わる談話が記録されている。それに対して、Bの「民俗・日々の暮らし」の談話は少ない。2013年度は、談話総数は2012年度よりも少なくなったが、B「民俗・日々の暮らし」に関する談話が多くなり、多彩な内容である。

3　談話の内容による分類

前節で地域別に一覧として示した5県の談話を、その内容で分類して見ていく。なお、一つの談話の中にはいろいろな内容が含まれているので、同一の談話が複数の区分に分類される場合が少なくない。

A：震災の記憶・記録

(1) 地震・震災についての談話

a. 地震が起きたときの行動・状況

内容…揺れで動くこと、立っていることができなかった／すぐには地震だと気付かなかった／パニック状態で行動していた／パンクかと思った／屋根瓦が飛んできた／電柱が飴のように揺れた／自分の住んでいるところ・家は大丈夫だと思って、逃げることは考えなかった、など。(→津波からの避難行動については (2)c.に分類)

談話…青森おいらせ町②、八戸市①　岩手釜石市②、大船渡市、陸前高田市　宮城東松

島市、利府町、七ヶ浜町、仙台市、名取市、岩沼市、山元町　福島相馬市、福島市、南相馬市小高区、浪江町①　茨城大津町①、高萩市、日立市、水戸市①、大洗町①、波崎①

b. 地震直後の行動・状況

内容…水やガソリンの入手に困ったこと／沢の水や井戸水が役立った／停電で電化製品は使えなかった／水道・電気はダメだがガスが使えた／情報が入らなかった／帰るのにひどく時間がかかった／道路や橋が地震によってあちこち通行止めだった／親を置いてはいけない、など。(→「d. 昔の人の知恵」に関連する内容)

談話…青森六ヶ所村、八戸市①　岩手大船渡市、陸前高田市　宮城気仙沼市、南三陸町①、石巻市、松島町、利府町、七ヶ浜町、仙台市、名取市　茨城水戸市①、波崎①、波崎③

c. 地震の後、避難先等での行動・状況や生活

内容…避難所が寒かった／あたたかい味噌汁がうれしかった／炊き出しをしたこと／避難所や仮設住宅での不自由な暮らし、トラブルの発生、など。

談話…青森八戸市①　岩手釜石市①、釜石市②、大船渡市、陸前高田市　宮城気仙沼市、南三陸町①、東松島市、松島町、利府町、七ヶ浜町、仙台市、亘理町　茨城大津町①、大洗町③、大洗町④

d. 昔の人の知恵

内容…ペットボトルの湯たんぽで暖を取った／何もない中での知恵比べ、昔の生活を体験した人は危機に瀕して強く、年寄りのいる家は回転が速かった、など。

談話…岩手陸前高田市

e. 東日本大震災からの教訓

内容…いざとなれば昔のものが役に立つ／年寄りの言うことには耳を貸すものだ／水のありがたさと緊急時に役立つ井戸の整備の必要性／仮設の隣近所がいまだにわからないことから、段ボールで囲った避難所での生活を振り返った、など。

談話…青森八戸市①　宮城気仙沼市、七ヶ浜町　茨城日立市、水戸市①

(2) 津波・液状化についての談話

a. 津波の様子、被害

内容…津波の前兆で海が動いた／潮が引いた／まず砂が降ってきた／黒い波が押し寄せてきた／海の色が変わった／防潮堤を越える波の様子／一気に押し寄せた波／引く波のこと／翌日、畑が湖のようになっていた、など。

談話…青森六ヶ所村、おいらせ町①、おいらせ町②、八戸市①　岩手田老④、山田町①、山田町②、釜石市①、釜石市②、大船渡市、陸前高田市　宮城名取市、亘理町、山元町　福島南相馬市小高区、浪江町①　茨城大津町①、大津町②、高萩市、波崎③

b. 液状化現象の様子

内容…液状化で真っ黒い水が噴き出した／液状化で砂と黒い水が畑から吹き上がった／道路から水が吹き上がり、家が傾いていた大変な状態、など。

談話…宮城利府町、岩沼市　茨城波崎③

c. 津波からの避難行動

内容…家族を待たずに逃げて助かった／家族を待ったり、迎えに行ったりして津波被害に遭ってしまった／どこをどう避難したか／親を置いては逃げられないという葛藤／避難の呼びかけについて／船の避難のこと、など。

談話…青森おいらせ町①、八戸市①　岩手田老④、山田町①、釜石市①、釜石市②、大船渡市　宮城仙台市、岩沼市、山元町　福島相馬市、南相馬市小高区、浪江町①　茨城大津町①、高萩市、大洗町①、大洗町②、波崎①、波崎③

d. 昭和三陸大津波（昭和8年）の記憶

内容…昭和8年の津波の様子／よく整備されている今は安心していいという老人の話／誰も自分の家の辺りまで津波が来るとは思っていなかった、など。

談話…青森おいらせ町①、おいらせ町②、八戸市①　岩手田老①、田老②、田老③、田老④、山田町②、釜石市①、大船渡市

e. チリ地震の津波の経験

内容…チリ地震の津波のすごさ、港も堤防も整備されていなかったので恐ろしかった／今回は防波堤をかさ上げしたので、津波が来ても家は流されないと思った／チリ地震の津波のときの静かな津波のイメージと今回の津波のギャップ、など。

談話…青森おいらせ町①、八戸市①　岩手山田町①、大船渡市　福島南相馬市小高区、浪江町①　茨城大津町②、高萩市、波崎②

f. 津波の経験と先人の知恵：てんでんこ

内容…明治29年、昭和8年の津波の経験からの教え「命てんでんこ」／貞観地震のこと／昔の漁師のことば「銚子の河口てんでんこう」、など。

談話…岩手田老④、釜石市①　茨城旧神栖①、波崎①

g. 津波の経験と先人の知恵：備え

内容…いつも大切なものを入れたリュックを玄関に置き、今回はそれを背負って逃げた／亡父の教えでいつもガソリンを半分以上入れていて、今回も助かった／防災とは日々が防災でなければならない／まじめに避難訓練をし、自分の命が助かることを考えて行動すれば、家族の安否を気遣って二次災害にならなくて済む、など。

談話…岩手田老③、田老④、釜石市①　宮城気仙沼市

h. 津波への油断

内容…明治29年、昭和8年の津波クラスだと思っていた／ここには津波は来ない／一週間前の地震でも津波は大したことがなかった／津波に慣れっこになっていた、など。

談話…岩手田老④、山田町②　宮城岩沼市　福島相馬市

i. 教訓、今後への備え

内容…「命てんでんこ」の30分ルール／生き残るための避難訓練は、待たずに一人でも逃げること／遠くでなく高い所が避難先、など。

談話…青森おいらせ町①　岩手釜石市①　福島保原町②

(3) 福島原発事故にかかわる談話

a. 原発による避難行動

内容…避難指示で、どこにどのように避難したか／ガソリン入手に困った、など。

談話…福島葛尾村①、双葉町①

b. 原発による避難先での暮らし

内容…一時避難所でどのように過ごしたか／避難所が寒かったこと／みんな（同郷の友達）が恋しい／今の暮らし、など。

談話…福島葛尾村①、浪江町②、双葉町①

c. 原発事故と放射能汚染・風評被害

内容…農作物と放射能汚染・風評被害、作っても売れない・安い／漁業と放射能汚染・風評被害、漁ができない、水揚げできても売れない・安い、など。

談話…福島保原町①、保原町③　茨城波崎③

(4) 震災と助け合い、支援活動

内容…隣近所・町内の助け合い／田舎でよかった／米軍・自衛隊・ボランティアに助けられた／4月の余震の後、ボランティアの行動で自分たちは立ち直れた／自らが給水活動をした／昔の地域の助け合いでは騒動はなかったが、今回は3日が限度だった、など（→（1）「c. 地震の後、避難先等での行動・状況や生活」）

談話…青森おいらせ町①、おいらせ町②、八戸市②　岩手大船渡市、陸前高田市　宮城気仙沼市、石巻市、東松島市、松島町　茨城日立市、水戸市②

(5) 震災と地域の将来

内容…震災の後、戻らない人が多い／町の回復は難しい／従事者が減って地域の産業（漁業と水産加工業）の衰退が不安だ、など。

談話…青森おいらせ町①　岩手山田町③　宮城亘理町

B：民俗・日々の暮らし

(1) 日常の暮らし（今、昔、変化）

内容…昔の農業・山仕事やその苦労話、時代による変化／昔の漁業やその変化／家の仕事

を手伝った子どもの頃のこと、など。

談話…青森三沢市①、三沢市②　岩手山田町③、大槌町　宮城南三陸町②、女川町　福島双葉町⑤　茨城旧神栖②、旧神栖③、旧神栖④

(2) 年中行事、地域の行事、冠婚葬祭、慣習（今、昔、変化）

内容…正月とその準備、小正月、節分などの年中行事／小正月のいわゆる「繭玉」の地域による違い／昔の結婚式は披露宴が3回もあった／七五三の祝い方、など。

談話…岩手山田町⑤　宮城女川町　福島双葉町②、双葉町③、双葉町④、楢葉町他①　茨城平潟①、平潟②、旧神栖⑤、波崎⑤

(3) 昔の子どもの遊び

内容…小正月の子どもの行事（遊び）／日常的な子どもの遊び。

談話…茨城平潟③、波崎⑤

(4) 方言について

a. 震災と方言

内容…よそから来た人は方言がわからない、今回の震災でもことばは大事だ／方言は復興の邪魔にはならない／方言で励まされて力づけられた、同じ意味でも標準語とは重みが違う、など。

談話…青森おいらせ町④、八戸市②

b. 方言に対する考え・評価や時代の変化など

内容…方言は地域の文化だから残したい、保存すべきだ／方言を使い続けたい／生まれたときから使っていることばで、親しみやすいし日本の文化だから忘れられては困る／方言は自分の気持ちを伝えやすい／方言は自然になくなるものだ／ふだんふつうに使っている方言なので、大事かどうかわからない、など。

談話…青森おいらせ町③、おいらせ町④　岩手田老⑤、山田町④　宮城多賀城市　福島葛尾村②

c. 具体的な方言、方言の違い

内容…郷里の方言と違う地域で暮らした時の方言での苦労話／隣り合っている地域だが、ことばの柔らかさ・荒さの違いがある／神栖は銚子のことばと似ているが、旧神栖と波崎は違うし、陸と浜とでも違う／具体的な地域の方言形とその意味、など。

談話…岩手田老⑤　宮城塩竈市、多賀城市　福島楢葉町他②　茨城旧神栖③

上述のように、談話資料そのものを見ると、地域は違っても震災経験に共通点があることや、地域による民俗行事の違いや日々の様々な暮らしの一面を知ることができ、これらは方

言談話という形による民俗資料と言えるものである。地震そのものや津波に関わる内容の談話は、数も多く広域で収録されている。とは言え、東日本大震災の規模の大きさや広域に及んでいて未だ復興がままならない状況にあっては、震災直後のことだけでなく、時とともに変化する避難先での暮らしや復興の過程についても、記録にも記憶にも残すべきものであろう。同様に、日々の暮らしや民俗に関する話については、2年間で各地のものが収録されたものの談話数は多いとは言えず、内容にも偏りがある。福島原発事故に関わる談話も同様である。これらについても継続的な談話の収集が望まれる。

以上、筆者の視点から被災地の方言談話を内容で分類して示した。被災地5県5大学では、2014年度にも継続して文化庁委託事業に取り組み、その成果の一部として方言談話も報告書等で公表されている。それら継続的に行われて収録された方言談話を含めた一覧化や分類については、稿を改めて述べたいと思う。

注

(1) 文化庁委託事業の名称は、2012年度は「東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業」、2013年度は「被災地における方言の活性化支援事業」である。

(2) 2013年度に青森と宮城の談話が見られないが、青森県では岩手県田老における被災経験の談話が記録されたためであり、宮城県では自然談話ではなく、気仙沼市と名取市の日常の100場面の会話集を作成したためである。